

# 未来のまちづくりへ 新庁舎建設に向けた提言

当別町役場庁舎は、長年にわたり町民の暮らしを支えてきました。

しかし、建築から半世紀以上が経過し、老朽化や耐震性の課題が深刻化しています。災害時の対策本部としての機能も求められる中、町では令和3年9月に「当別町庁舎建設基本構想（素案）」を策定。令和4年2月に「当別町新庁舎建設検討委員会」が設置されました。

委員会では、庁舎の機能や規模、建設場所、手法などについて、現状と将来を見据えた検討が行われ、令和7年8月に「当別町新庁舎建設に関する提言書」が町長へ提出されました。

今月は、委員会の活動の経過、提言書の内容をご紹介します。

## 当別町新庁舎建設検討委員会の経過

### 当別町新庁舎建設検討委員会の動き

第1回 基本構想（素案）に沿って検討

令和3年度

第2～7回 面積規模の再検討、  
兼用化・分散化の検討

令和4年度

第8～9回 分散化の検討、費用概算の算出

令和5年度

令和5年9月  
北海道医療大学の移転報道

町の情勢の変化に伴い、庁舎建設は  
第10～12回 新築を基本としつつ、現庁舎を改修  
し対応する整備方針へ見直し

耐震化調査の結果、現庁舎の  
改修費には、約38億円かかる見込み

令和6年度

第13～16回 現庁舎の耐震化の可能性、  
建設候補地の検討

調査結果を踏まえ、現庁舎の改修は  
行わず、新築へ方針見直し

第17～19回 新庁舎の規模、機能、建設候補地、  
建設手法の検討、提言書（案）の検討

令和7年度



「当別町新庁舎建設に関する提言書」提出

# 4つの提言で描く、未来の新庁舎

当別町新庁舎建設検討委員会では、新庁舎のあり方について4つの視点から検討が行われ、その内容が提言書として町長へ提出されました。

## 01 町民、職員にやさしい機能の充実

現庁舎にはバリアフリー機能がなく、利用しづらい面があります。新庁舎では、エレベーターや多目的トイレの設置、災害時に備えた備蓄倉庫や災害対策室などの機能強化が必要です。

さらに、デジタル化による町民サービスの向上や空調設備の充実など、庁舎利用者の利便性および職員の働きやすさにも配慮し、快適な空間づくりも重要です。

また、町の未来を考え、文化ホールの併設など、複合化についても検討すべきです。



## 02 適正な規模で効率的に

基本構想（素案）では延べ床面積 5,140㎡とされていましたが、機能の見直しや諸室の兼用化により、4,597㎡まで縮減可能と整理しました。

分散化案も検討を行いました。既存施設の老朽化や改修費の課題から、機能を集約した新築が最適と判断しています。

必要機能	現庁舎面積(㎡)	適正化面積(㎡)
事務室	943	1,180
更衣室、トイレ(多目的)等	456	538
議場	516	525
書庫	181	120
会議室、サーバー室、備蓄倉庫等	185	650
機械室、電気室等	117	392
待合スペース、エレベーター、階段等	719	1,192
合計	3,117	4,597

## 03 まちの未来を見据えた建設候補地

複数の候補地を比較した結果、旧公民館用地とその周辺を第一候補地として整理しました。市街地に近く、利便性が高いことに加え、新たな人の流れを生み出し、地域経済の活性化にもつなげると期待します。

旧当別小学校用地は第二候補地として位置付けています。



## 04 効率的な建設手法の選択

建設手法については、従来手法、PFI方式、リース方式の3つを比較。工期の短さや費用の平準化などのメリットから、リース方式を第一候補としました。今後の国の補助制度の動向を見ながら、柔軟に対応できる体制づくりが重要です。

### リース方式とは

民間に性能発注・一括発注をし、民間が資金調達を含め設計や建設まで行う方法。  
施設供用開始時からリース料の支払いが生じる。



### メリット

- 民間のノウハウを活かしやすい
  - 費用負担の後年次への平準化が可能
  - リース満了まで修繕費は、リース会社が負担
- ### デメリット
- 全国的に事例が少ない